

修道誓願 57 年

イ：インタビューー 香：アンジェラ・メリチ香代子

イ：こんにちは、シスターの洗礼名、Firstname、今の使徒職を教えてくださいか。

香：アンジェラ・メリチ香代子です。キリスト教を知りたい、と思っている方々と一緒に、勉強会をしています。

イ：では、これまでの修道者（シスター）としての生活について、いくつかお尋ねしたいと思います。

香：インタビューを受けるとお聞きして、自分でも少し思い出して、メモしてきました。

イ：さすが、抜かりがありませんね。

私が見る Sr. 香代子は、いつも自由な発想で、行動力があり、神様に愛されていることを 100%以上喜んでいるという感じですが、小さいころはどんな子どもだったのでしょうか。

香：母は、私が母のおなかにいる時から、花の好きな女の子がいいなと思っていたらしく、毎日植木鉢の花を眺めていたそうです。その通り、花の好きな女の子でした。しかし、一方では芯が強く「香代ちゃんは、こうしたい」というのがいつもありました。

イ：小さいころから「香代ちゃん」は、しっかり「自分」を持っていたのですね。成長して、学生時代はどんなことに夢中になった少女でしたか。

香：私が女学生の頃は、誰も自分の好きなことなんてできない時代でした。戦時中でしたから、勤労奉仕の毎日で、田植え、稲刈り、炭焼など、お国のために頑張ろうと、それしか考えていませんでした。ところが、敗戦を迎えて、人生は全部ひっくり返ってしまいました。母は原爆で亡くなり、家は焼夷弾で焼け落ち、父は財産の殆どを失い、友達も多く亡くなっていきました。「自分は何のために生きているのだろうか…」と、模索を始めました。そして、近くの教会へ「人生の意味」を探すために神父様を訪ねました。また、私は、すべて失ったどん底にある人々に、暗い顔を見出だすよりも、不思議なことに、生きるために必死に何かを求めている顔を見ていました。この時に見出したのは、まわりのすべての人がすべてを失い、今でいう横並びで格差のない連帯です。誰もが同じ立場に置かれ、人をうらやむことはありませんでした。

イ：大変な時代を、シスターもよく生き延びてこられましたね。学校（女学校）を卒業してから、どんな仕事に就かれたのですか。

香：本当は幼稚園の先生になろうとしたのですが、戦後の事情で、小学校の先生になりました。

イ：その頃、シスターという存在に出会っておられましたか。どんなイメージを抱いていましたか。

香：多くのシスターに出会ったわけではありませんが、「シスター」には、信念がしっかりしていて厳格、厳しい愛をもって自分の信仰を伝える、というイメージがあり、実際にそういうシスターの姿を見ていました。そして 18 歳の時に洗礼を受けました。

イ：シスターの時代なら、たいていの女性は、結婚という道を選ぶのが一般的だったのではないのでしょうか。なぜ、シスターになりたいと思ったのですか。

香：結婚という道も考えました。ただ、戦後の悲惨な社会を見て、自分の人生を人のために役立てたい、そういう生き方がしたいとずっと思っていました。修道生活を知ったとき、これが人のために人生をかけているグループだ、と感じたんですね。

イ：コングレガシオン・ド・ノートルダム修道会（以下 CND）のシスターと最初に会ったのは、いつ・どこで、でしたか。

香：実は、私のことをよく知っていらっしゃる別の修道会に、入会するはずでした。入会の一週間前に、ある神父様が、私をどうしても CND に紹介したいとおっしゃったのね。それで明治学園（北九州市にある CND シスターズのいる学校）を訪ねて学習発表会を見たら、瞬間的に「ここだ！」って思ったんです。でも、その後が大変。教会の主任神父様に呼ばれて「その心変わり、は、悪魔の誘惑だ！」と言われました。でも私の中では、私のことを誰も知らない修道会に入るべきだ、という強い思いもありました。

イ：ひとり娘の香代ちゃんが、「修道生活をしたい」とお父様に話された時、どんな反応が返ってきましたか。

香：意外にも賛成してくれたんです。父は、私が洗礼を受ける時大反対しました。そこで論争が続き、最終的に、毎月一回お墓参りをするのであれば許す（まさかクリスチャンがお寺のお墓参りは出来ないだろう、という父の思惑があったのです）、ということになりました。ところが、父も、その後私に黙って神父様のところに通い、洗礼を受けていたんです。母親を失い、不良になるかと思っていた娘がまともに育った、これは教会のおかげだと思ったそうです。でも、入会してからは「そこで幸福でなかったら、いつでも帰っておいで」と、毎日のように手紙が来ました。

イ：無事入会がかなった後、修練期に得たものは何でしょうか。

香：15 人ほどいた修練の仲間ですね。嬉しいことも、辛いこともすべてが仲間と一緒に。何事も自分のことのように感じていました。ここでの心のつながりは、特別なものです。

イ：誓願を立てて最初に直面した困難はどんなものでしたか、そしてどのように乗り越えられましたか。

香：教育現場に派遣されて、自分の未熟さ、力のなさや、教育、人を育てることの難しさを感じました。毎日、自分との闘いでした。もちろん神様に祈りました。そして、霊的な支えになってくださる方たちに助けられて、今の私があります。

イ：長きにわたって経験された修道生活の喜びは何でしょうか。

香：多くの方たちといつも関わっていられたことでしょうか。特に、その方々が、神様に会った姿を見た時は、本当にうれしいですよ。

イ：シスターは、召命の家を作り、そこで活動したいという希望を抱いておられました。今も、若い人

と関わることにとても興味をお持ちですね。将来、私たちの CND に入会したいという人たちを、どのように迎え入れようと思われますか。また、若い人たちに、どんな風に修道生活を歩んでほしいと期待されますか。

香：入会した人たちが、自分らしく生きられるような雰囲気づくり、特に寛容さを心掛けたいです。社会が変化していくとき、修道生活も当然変化していきます。360年の歴史の上に立つ CND の香りを維持しながら、どう新しい修道生活を生きるかを識別（神と共に祈りのうちに選び取る）する力を若い方々に持ってほしいです。周りの人々に助けられながら、恐れずに前進することも大切でしょう。

イ：座右の銘になっている聖句は何でしょうか。

香：イザヤ書「恐れるな、私はあなたと共にいる」です。

イ：最後に、CND の創立者聖マルグリット・ブールジョワの一番好きなところはどこですか。

香：聖マルグリット・ブールジョワを描いた絵画の中に、「北風に向かって、前に進む」ものがあるのですが、これが、私たちの生き方を象徴しているように思います。困難の中を、神の望むところを目指して進む、ここが一番好きです。

イ：最後に、シスターにとって修道生活の原点とは何でしょうか？

香：修道生活は、まず神と私のかかわりに気づくことから始まるでしょう。生涯を通して、神とのかかわりを深め、また、同じ方向を目指す姉妹たちと生活を共にし、友情を育み、お互いに我慢したり赦し合ったりしながら歩いていきます。そうでなければ、現代のシェアハウスと何ら変わらないものになってしまうですね。

イ：ありがとうございました。シスターが、これまでいろいろな使徒職に励み、会の責任を担ってくださったことに感謝しています。また、神様が、どのようにシスターアンジェラ・メリチ香代子を CND にお呼びになったのかの不思議さにも気づかせていただきました。CND の香りを保ちながら、未来を切り拓いていく後輩シスターでありたいと思います。



インタビューー：シスター高橋香久子
シスター高橋もと子